

宮永市遺跡発掘調査報告

1989年3月

石川県立埋蔵文化財センター

宮永市遺跡発掘調査報告

1989年3月

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

1. 本書は、石川県松任市宮永市町に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、1985年度県営圃場整備事業旭地区の施工に伴って、石川県農林水産部耕地整備課から依頼を受けて、1985年7月1日～8月1日にかけて、排水路工事で遺跡が破壊される部分を調査した。
3. 調査は、以下の職員が担当した。

石川県立埋蔵文化財センター　　主査 小嶋芳孝

主事 藤田邦夫

4. 調査の実施に当たって、横山貴広氏の協力を得た。
5. 出土資料の整理は、㈲石川県埋蔵文化財保存協会に委託して行った。
6. 本書の編集は、小嶋が行った。（瓦については、木立雅朗が執筆した。）
7. 今回の調査に係る資料は、石川県立埋蔵文化財センターに保管している。
8. 調査の実施に当たって、松任市宮永市町周辺の皆さんとの協力を得た。記して感謝の意を表します。

I 位置と環境

宮永市遺跡は、石川県松任市の西北部に位置している。松任市は、石川県の県都金沢市の南郊に位置し、人口が約55,000人・面積は59.75km²で、耕地面積は3,880haである。近年は、金沢市のベッドタウンとして住宅地の開発や、工場の建設が盛んであるが、元来は手取扇状地に広がる農地を生活基盤とした穀倉地帯である。扇状地を流れる手取川の分流を利用した用水を網の目のように張り巡らした七ヶ用水の建設や、耕地整理の実施など、近代以降の農地開発事業によって水田經營の生産性が飛躍的に増大している。

手取扇状地は、白山に源を発する手取川が形成した大規模な扇状地である。現在の手取川の流路は、手取谷の出口の鶴来町を出ると大きく南にカーブして扇状地の南端を流れている。しかし、文献資料などの検討では鶴来町から真っ直ぐに流れる現在の大慶寺用水が、中世以前の流路であったと指摘されており、宮永市に遺跡が営まれていた当時は手取川が現在よりも近いところを流れていたようである。

宮永市遺跡は、海拔10m前後の扇状地に位置している。Fig. 3は、周辺の遺跡分布図である。野々市町御経塚遺跡に代表されるように、縄文時代後期から晩期の大型遺跡が、海拔10m前後の低地に点々と営まれている。宮永市遺跡の周辺では、八田中遺跡周辺に縄文晩期から弥生前期の遺跡が集中して調査されている。弥生時代中期の遺跡は、前期と同じように八田中遺跡の周辺で比較的多く検出されている。宮永市遺跡に入々が足跡を残した弥生時代後期は、手取扇状地でも最も遺跡の数が増えた時代であった。宮永市遺跡の周辺では、宮永坊ノ森遺跡・竹松遺跡など、土器散布地の調査をするとほとんどの遺跡から当該時期の土器が出土しており、弥生時代後期の遺跡密度がかなり高く、現在の集落密度と近似していたようである。宮永市町と宮永町から東南側は松任市の市街化調整区域に入り、遺跡の分布状態が十分に把握されていないが、比較的調査の進んでいる松任市東側の野々市町末松周辺では、宮永市遺跡周辺に見られるような弥生時代後期の遺跡高密度分布は見られない。宮永市遺跡では、奈良・平安時代の遺物は極く少量を検出しているにすぎず、また、中世や近世の土器も若干量を検出したのみである。周辺の遺跡では、竹松遺跡では1986年度の県宮園場整備事業に伴う調査では、奈良時代の堅穴式建物を検出している。また、松任市横江町では東大寺領の莊園関係の遺跡と推定できる横江遺跡がある。横江遺跡では、弥生時代中期から平安時代中期の間に断続的に遺跡が営まれ、特に、東大寺の莊園が設定された奈良時代末から平安時代前半に大型の建物群や倉庫群が多数建てられていた事が近年の調査で明らかになってきた。中世には、宮永坊ノ森遺跡周辺に寺院があったという伝承があるが、松任市周辺の扇状地には寺院や館跡の伝承地が多数確認されている。しかし、これらの伝承地が考古学



Fig. 1 宮永市遺跡の位置

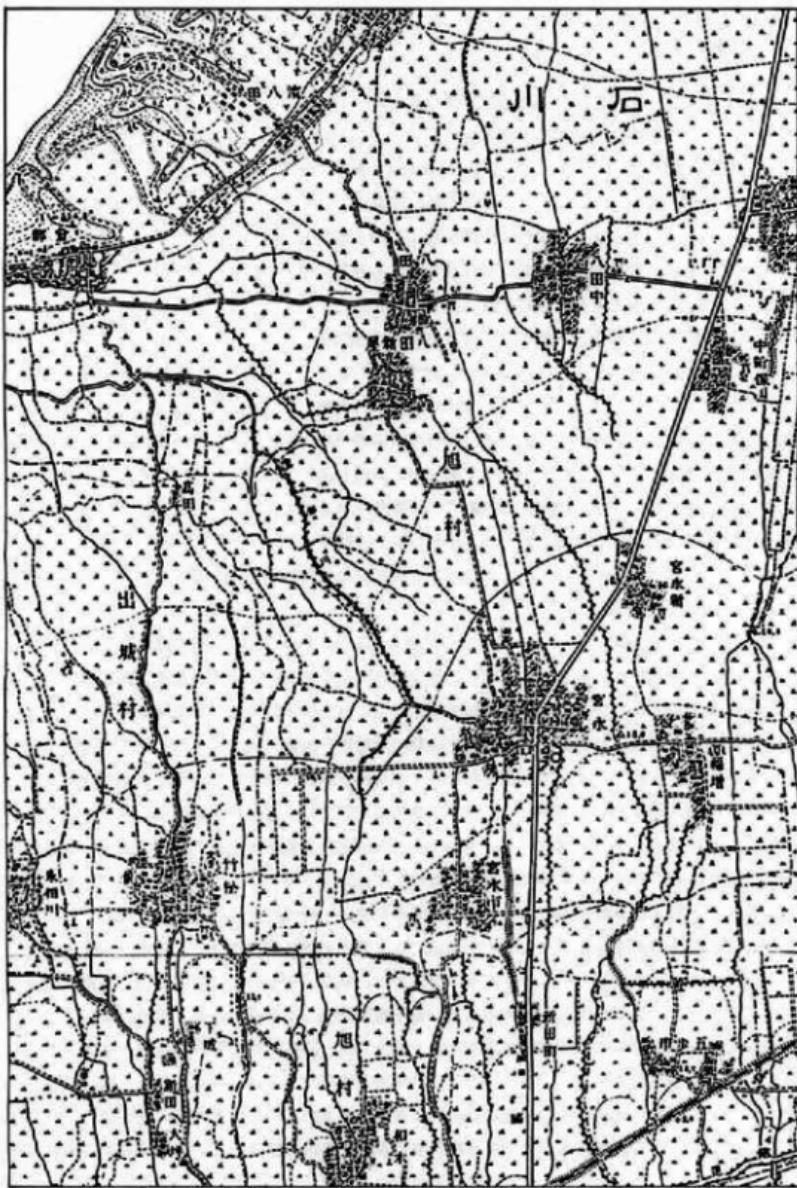
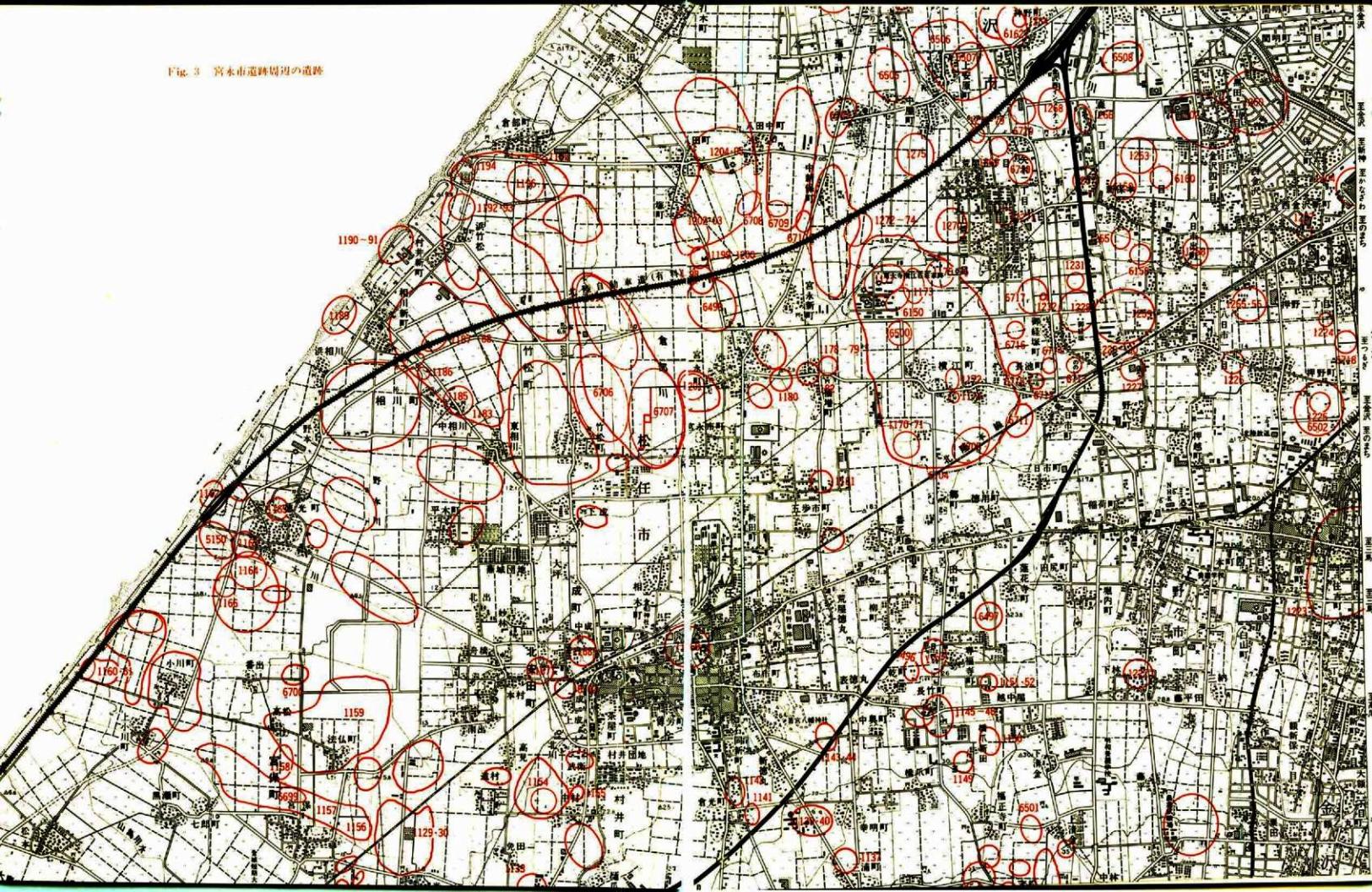


Fig. 2 宮水市遺跡周辺の旧地形図 (1: 20,000)

Fig. 3 宮永市遺跡周辺の遺跡



番号	名前	所在地	時代
1188	御子川河原	佐伯市龍町	古墳
1189	葛原山古墳	佐伯市御所川町	古墳
1190	御子川古墳	佐伯市御所川町	古墳
1191	川原御所川古墳	佐伯市御所川町	古墳
1192	糸井古墳	佐伯市糸井町	古墳
1193	吉野原古墳	佐伯市吉野原	古墳
1194	吉木原古墳	佐伯市吉木原	古墳
1195	竹取古墳	佐伯市宮本	古墳
1196	吉木原古墳	佐伯市吉木原	古墳
1197	辻小字佐渡原	佐伯市青森	古墳
1198	一ノ瀬古墳	佐伯市一瀬	古墳
1199	A山古墳(御所川古墳)	佐伯市八重丘	古墳
1200	有間原古墳	糸井古町御所村	古墳
1201	御所川古墳	糸井古町御所村	古墳
1202	御所川古墳	糸井古町御所村	古墳
1203	八日ヶ谷カスマル遺跡	糸井古町八日ヶ谷	古墳
1204	糸井戸ハイツ遺跡	糸井古町糸井戸	古墳
1205	下原古墳	糸井古町下原	古墳
1206	上原御所川古墳	糸井古町上原	古墳
1207	糸井古墓群	糸井古町糸井	古墳
1208	糸井古墓群	糸井古町糸井	古墳
1209	西原古墳	糸井古町糸井	古墳
1210	高原古墳	糸井古町糸井	古墳
1211	寺山古墳	糸井古町糸井	古墳
1212	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳
1213	田中ノ子遺跡	糸井古町糸井	古墳
1214	上原御所カワリ遺跡	糸井古町糸井	古墳
1215	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳・平安
1216	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳
1217	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳
1218	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳
1219	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳
1220	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳
1221	糸井古墳	糸井古町糸井	古墳

番号	名称	所在地	特征
4406	吉永酒造	鹿児島市吉永	吉永、吉崎、中生
4706	八田山ヒューリング酒造	鹿児島市八田山	鹿児島、中世
1173	鶴友の酒造	鹿児島市鶴友	鶴友、元良、宇友
5802	鶴友アズキノ酒造	鹿児島市鶴友	鶴友、佐喜、元代、中世
1201	一鶴酒造	鹿児島市一鶴	鶴友、野生、洋酒
4117	新堀田サンデン酒造	肝付町新堀田	新堀田、尊喜、吉吉
1146	吉村酒造	鹿児島市吉村	吉村
1178	吉野酒造	鹿児島市吉野	吉野
1180	高橋川町の酒造店	鹿児島市高橋川町	野生
1181	荒川町の酒造店	鹿児島市荒川町	野生
1182	湯川町の酒造店	鹿児島市湯川町	野生
1255	所内酒造廠	更木町所内	所内
1260	森屋久寿喜川酒造	糸田町森屋久	野生
1271	上武屋佐兵郎酒造	鹿児島市上武屋	野生
1273	下原酒造場	鹿児島市下原	野生
1276	上北屋清左衛門酒造	鹿児島市上北屋	野生
1280	谷口酒造	鹿児島市谷口	野生
6710	大川山アレタ酒造	鹿児島市大川山	野生
4714	新堀田ヤマノ酒造	肝付町新堀田	野生
4715	高島ニシキノ酒造	肝付町高島	野生
4718	新堀田オッソ酒造	肝付町新堀田	野生
4719	矢吹マノゾノ酒造	金峰町矢吹	野生
6720	高見ジヅル酒造	鹿児島市高見	野生
5150	黒瀬アノヤマ酒造	肝付町黒瀬	黒瀬、中世
4797	吉永酒造	鹿児島市吉永	吉永、中世
6708	カサグラン酒造	鹿児島市カサグラン	カサグラン、中世
1177	鶴友川辺酒造	鹿児島市川辺	鶴友、鶴友、伊留
1210	三鶴酒造	鹿児島市三鶴	古早
1147	嘉義酒造	鹿児島市嘉義	小早
1146	小川(新屋)酒造	鹿児島市小川	吉川
1032	中原川山酒造	鹿児島市中原川	古早

番号	名所	所在地	時代
0006	上野城	台东区上野原	後奈・平安
0713	御殿山(ダニンヤ)跡	墨田区御殿山	後奈・平安
1159	北之堀跡	墨田区北之堀	平安
1162	足利成壽廟	墨田区足利稻荷	平安
1158	足利義満廟	墨田区足利	平安
1174	源氏五帝廟	墨田区源町	平安
1176	ジャクソン寺跡	墨田区江戸川	平安
1226	南蔵毛古墳	葛西区南蔵毛	古墳
1155	中村城跡	墨田区中村	平安・中世
0564	清正公アゴワ温泉	墨田区清正公	平安・中世
0566	北ノカミオサ温泉	墨田区北ノカミ	平安・中世
0716	足利・足利城跡	墨田区足利	平安・中世
1159	北之堀跡	墨田区北之堀	平安
1141	吾妻山古墳	墨田区吾妻	平安
1162	吾妻城跡	墨田区吾妻	中世
1144	南之堀跡	墨田区南町	平安
1145	黄門城跡	墨田区黄門	平安
1146	駒木大塚	墨田区駒木	平安
1153	吾妻山跡	墨田区吾妻山	平安
1154	河原町守山跡	墨田区河原町	平安
1158	光明寺跡	墨田区光明寺	中世
1157	赤坂御衣冠冢本園跡	墨田区赤坂	平安
1161	小石川後乐园跡	墨田区小石川	平安
1165	豊島御苑跡	墨田区豊島	平安
1168	足利城跡	墨田区足利	平安
1172	ゴラ寺跡	墨田区江戸川	平安
1182	墨田平井山跡	台东区平井	平安
1145	高木(高麗)	墨田区高木	平安
1191	高倉御所跡	墨田区高倉	平安
1190	高倉御所	墨田区高倉	平安
1191	高倉御所跡	墨田区高倉	平安

Tab. 1 宮永市遺跡周辺の遺跡地名表

的に確認された遺跡は少ない。松任市徳光町の聖興寺跡伝承地が、1987年の調査で、中世の遺物や遺構を検出しているので、今後の検討次第では聖興寺跡と推定できることになるかも知れない。

II 遺 構

宮永市遺跡では、遺構密度はあまり高くないが、SXとした竪穴式建物状の遺構や、SDとした溝、SKとした土坑、SPとした柱穴状の穴などを検出した。

- S X01 (16区) 一边が7m前後を計る、方形の竪穴式建物と思われる。内部に多数の小穴を検出しているが、いずれも数センチの深さで、建物の主柱穴になるような穴は見られなかった。壁の深さは、5から10センチ前後で、遺存状態の悪い遺構である。
- S X02 (26区) 短辺が5m前後の長方形の竪穴式建物であった可能性が強い。内部には、柱穴を殆ど検出しておらず、壁の高さも5cm前後と極く浅い遺構である。
- S K01 (1区) 140cm×100cmで、深さ20cmの土坑。覆土は暗灰褐色で、土器を多く包含していた。
- S K02 (6区) 一边1mの、隅丸方形の土坑。35cmの深さで、灰褐色系の粘質土が堆積していた。土坑の覆土上面に、まとめて土器を検出している。
- S K03 (9区) 長辺が約100cmの長方形の土坑。深さは約20cmで、暗灰色系の砂層が堆積していた。
- S K05 (17区) 短辺が40cm・長辺が60cm以上の土坑。覆土は、褐色系の粘質土。
- S K06 (19区) 短辺が1m前後の土坑。深さは15cm前後で、淡黄灰色の粘質土が覆土となっている。
- S D01 (1区) 幅40cm・深さ15cmの溝。覆土は、黒灰色を呈している。
- S D02 (1区) 幅70cm・深さ15cm前後の溝。西側で、一段深くなっている。覆土は明灰褐色で、礫が多く含まれていた。
- S D03 (3区) 調査区が、南北方向から東西方向に直角に曲がる地点で検出した。遺構の肩の部分しか検出していないので、溝になるのか判らないが、SDとして扱った。覆土は暗灰褐色の粘質土で、この肩の上面に土器が多く包含されていた。
- S D04 (4区) 幅100cm・深さ40cmの溝で、暗灰褐色の粘質土で一度埋まった後に、再び幅80cm・深さ20cmの溝が掘削され、灰褐色粘質土が堆積している。
- S D05 (4区) 幅100cm・深さ25cmの溝で、黄褐色の粘質土を中心堆積している。
- S D06 (6区) SK02から延びる幅40cm・深さ10cmの溝で、暗灰褐色の土が入っていた。覆土の上面から、比較的多量の土器を検出している。
- S D09 (10区) 幅60cm・深さ約10cmの溝で、暗灰色の砂質土が覆土となっている。礫や土器を検出している。
- S D10 (12区) 幅130cm・深さ約30cmを計る溝。暗褐色の覆土を持っている。土器は、あまり

検出していない。

- SD11 (13区) 幅160cm・深さ約20cmの、幅広の溝。覆土は、灰褐色系の粘質土。
- SD13 (14区) 幅90cm・深さ約30cmの溝。覆土は、灰褐色系の粘質土。
- SD14 (17区) 幅60cm・深さ約5cmの浅い溝。覆土は、褐色系の粘質土。
- SD15 (18区) 幅約60cm・深さ約20cmの浅い南北方向に走る溝で、覆土は黄褐色の粘質土である。
- SD16 (19区) 幅約60cm・深さ約15cmの浅い溝で、覆土は灰褐色の粘質土である。
- SD17 (16区) 幅約30cm・深さ約15cmの浅い溝で、覆土は灰褐色の粘質土である。
- SD18 (21区) 幅約40cm・深さ約20cmの浅い溝で、覆土は暗灰褐色の粘質土である。
- SD19 (27区) 幅約30cm・深さ約15cmの浅い溝で、覆土は灰褐色の粘質土である。
- SD20 (30区) 30区を南北に走る幅約60cm・深さ約15cmの浅い溝。覆土は黄灰褐色の粘質土である。
- その他 30区の北東のコーナーで、かなりしっかりした遺構の掘形を検出した。ほとんどが、調査区の外に出ているため、内容は良く判らないが、土器をかなり包含している。

III 遺 物

遺物の詳細については、観察表に記した。検出した土器のうち、ほとんどが弥生時代後期後半の標識資料としている松任市法仏遺跡出土資料に併行するものである。また、須恵器の破片が若干と、陶器片や瀬戸美濃産と思われる天目碗が若干出土している。

Fig. 20は棟瓦の破片で、焼成は堅致で灰色を呈する。どちらかと言うと、須恵質に印象が近い。表面は継ナデで調整を施し、裏面は幅広の板状工具で横ナデ（削り状）を施している。側縁部は、やや暗い色調を示しており、重焼の痕跡と思われる。厚さは1.6cmである。

棟瓦は、江戸時代中期に考案されたと言われているが、北陸においては紀年銘資料による限り、寛政7年まで遡り、実際にはそれ以前から普及したと推定される。ただし、その棟瓦は、越前焼の中から生み出された可能性の高い「赤瓦」と呼ばれる文字通り赤い瓦である。燃し焼き瓦では、今のところ棟瓦になる時期が確認されていない。むしろ、棟瓦の出現とともに燃し焼き瓦が衰退した可能性が高い。今回出土した瓦は小片であり、赤瓦の釉薬の塗り忘れか焼し損ないか、あるいは全く別の系統の瓦か特定できない。いずれにせよ、この瓦は棟瓦であると言う点から18世紀後半を遡る事なく、明治年間には赤瓦と黒瓦（黒い釉薬を厚く塗る瓦で、現在に直接つながる。）に限られると考えられることから、明治以降に下る可能性も低いと推定される。中・近

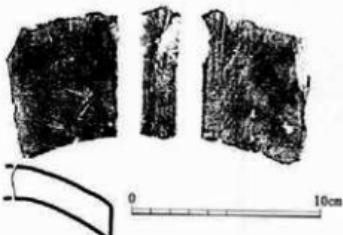


Fig. 3 瓦 拓 本 (S=1/3)

世以降の瓦については研究が遅れており、今後はこうした資料の蓄積と共に現在まだ屋根に葺かれている瓦の調査も行っていかなければならない。

（註 福井県立博物館の久保智康氏から御教示頂いた。福井県松岡町・柴神社に寛政7年の紀年銘瓦があり、それに伴う瓦が棟瓦である。また、若狭・敦賀を除く越前では棟瓦は全て赤瓦で焼し焼き瓦は本瓦葺きに限られると言う。加賀・能登でも今のところ焼し焼の棟瓦は確認しておらず、同じ状況である。）（瓦については、木立雅朗が執筆した）

IV ま と め

今回は排水路に限定した幅2mの調査のため、弥生時代後期後半に營まれた集落の一部を発掘したにすぎず、遺跡の全体を把握できたわけではない。しかし、宮永市遺跡周辺には冒頭にも述べたように弥生時代後期の遺跡が密集しており、このような遺跡集団は周辺では松任市法仏遺跡周辺・野々市町御経塚遺跡周辺など、いくつかのブロックを形成しながら手取扇状地に分布している見通しを得ることが出来た。今後は、これらの遺跡集団の検討を通して、弥生時代後期の地域構造を検討していきたい。

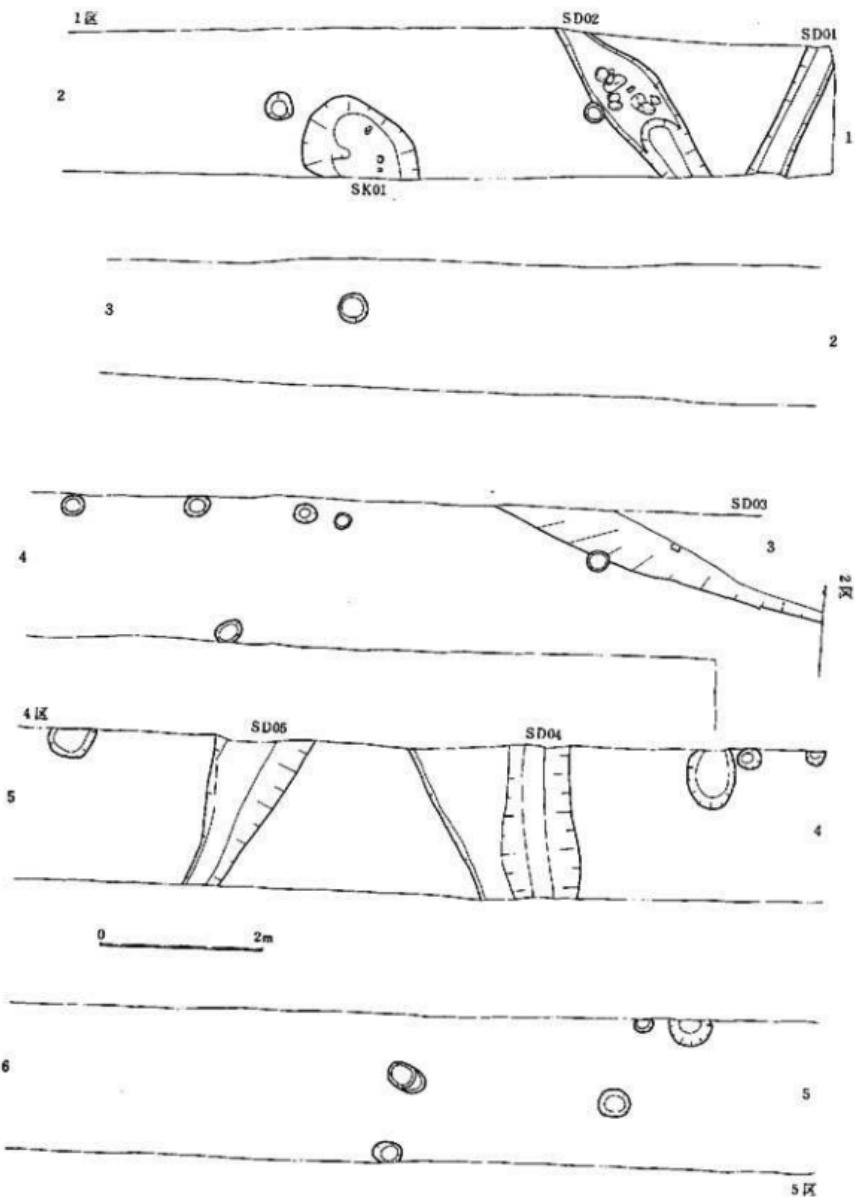


Fig.4 造構実測図

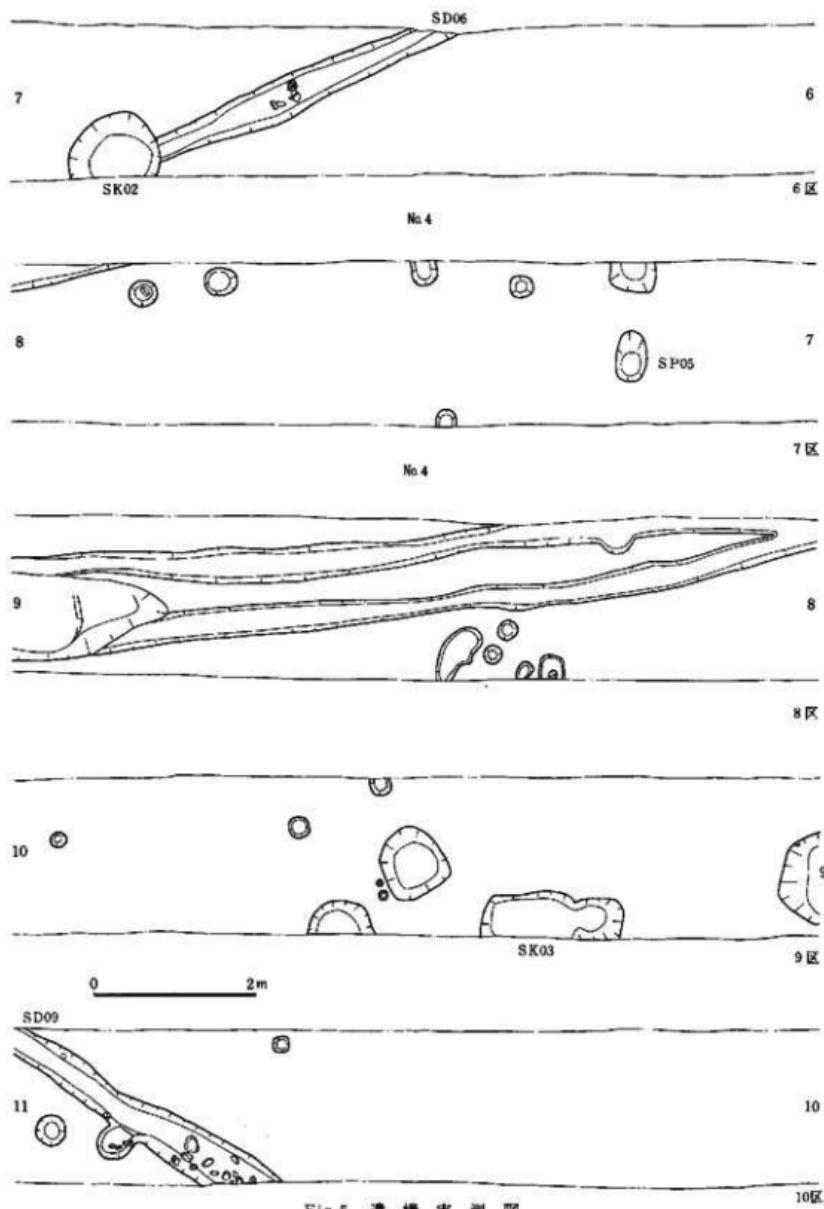


Fig. 5 遺構実測図

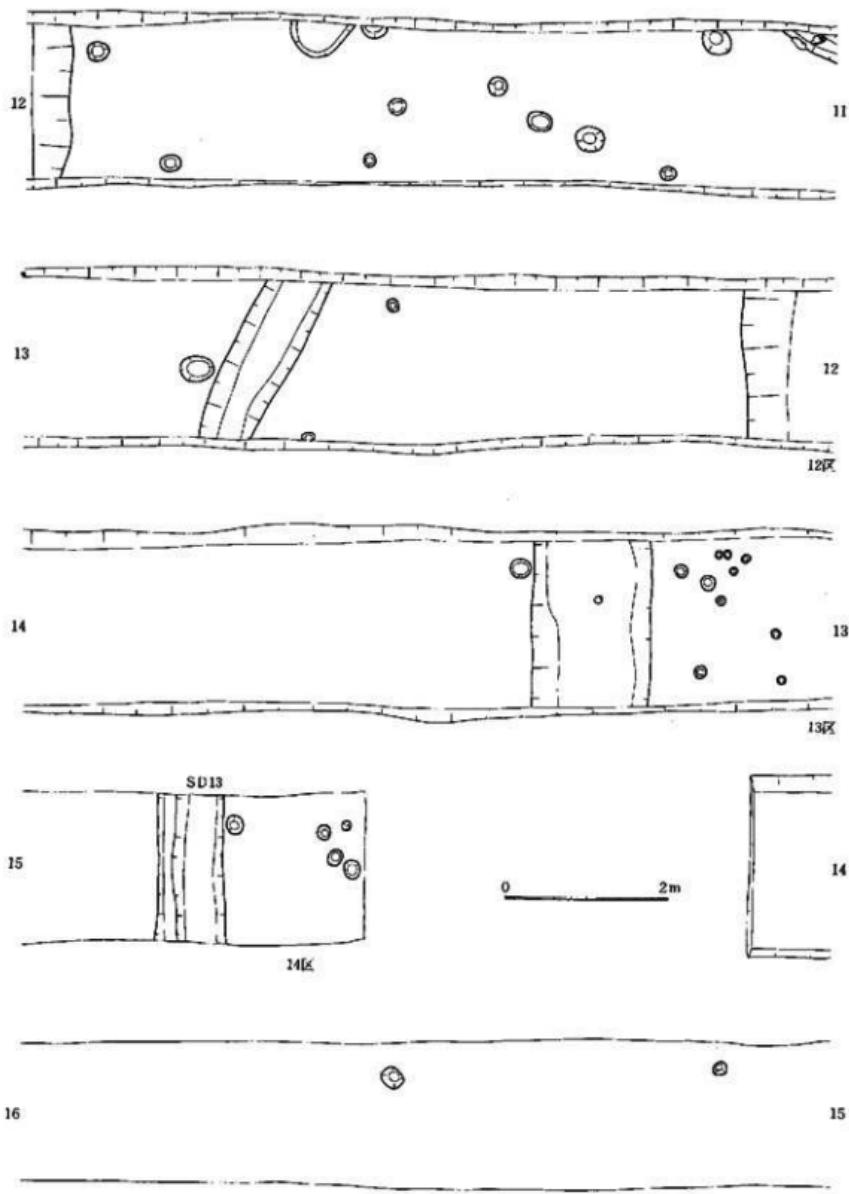


Fig. 6 遺構実測図

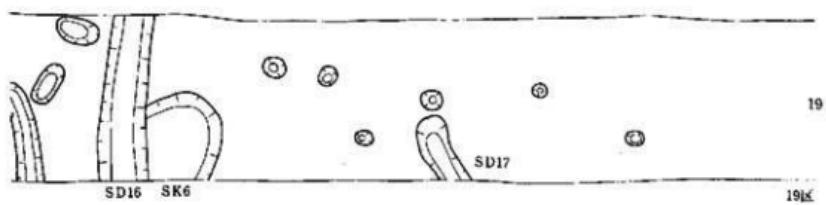
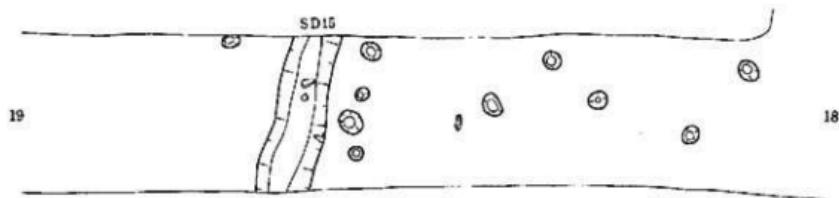
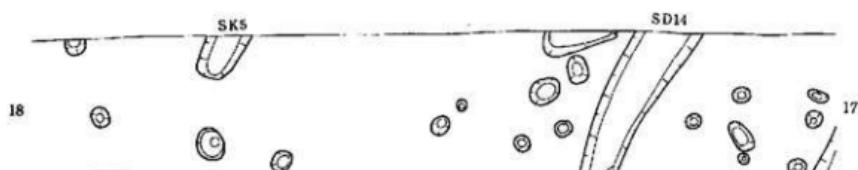
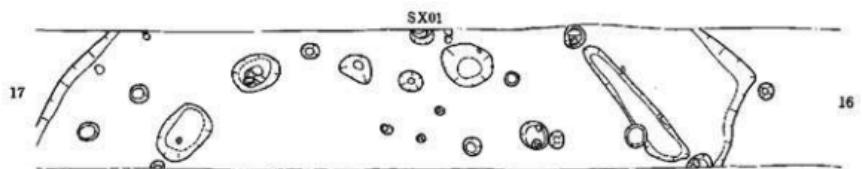


Fig. 7 進構実測図

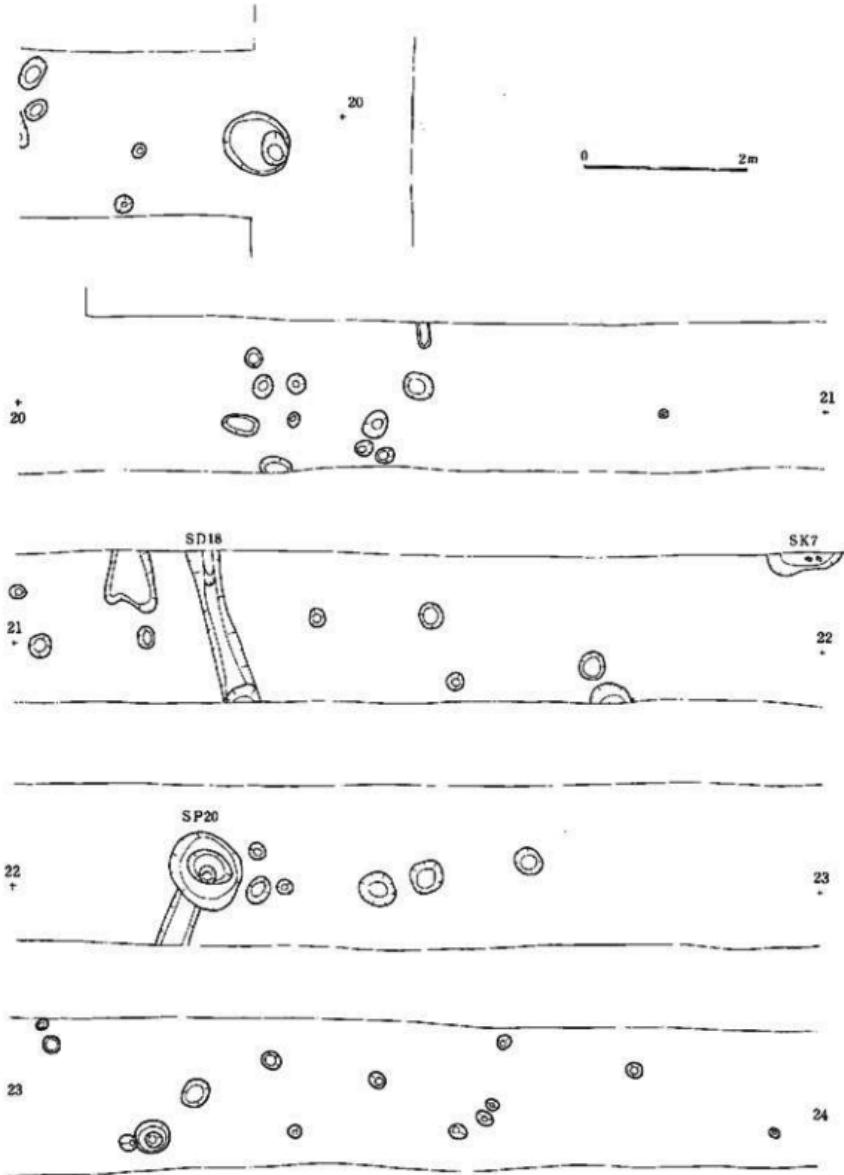


Fig. 8 遺構実測図

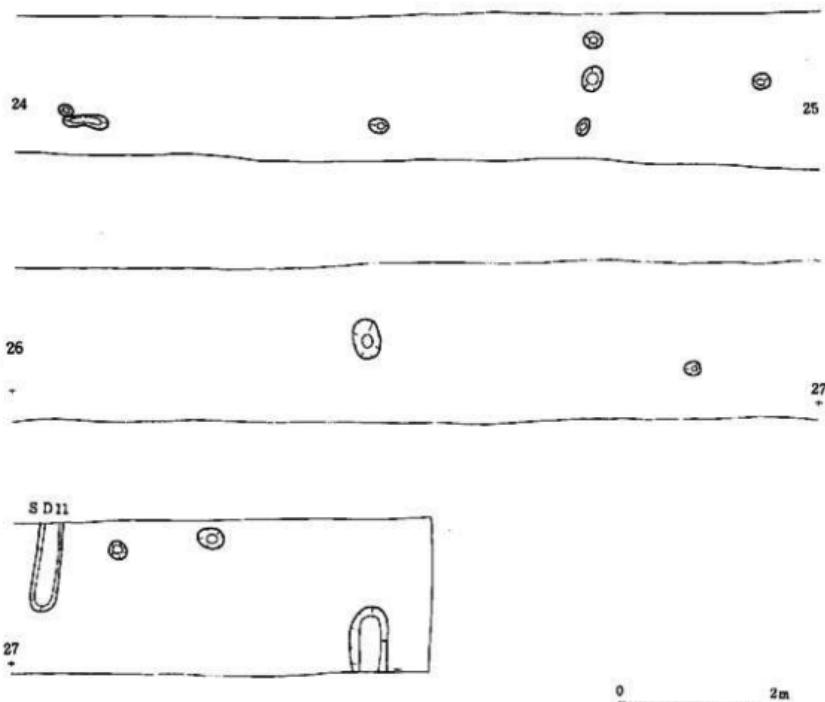


Fig. 9 遺 槽 実 測 図

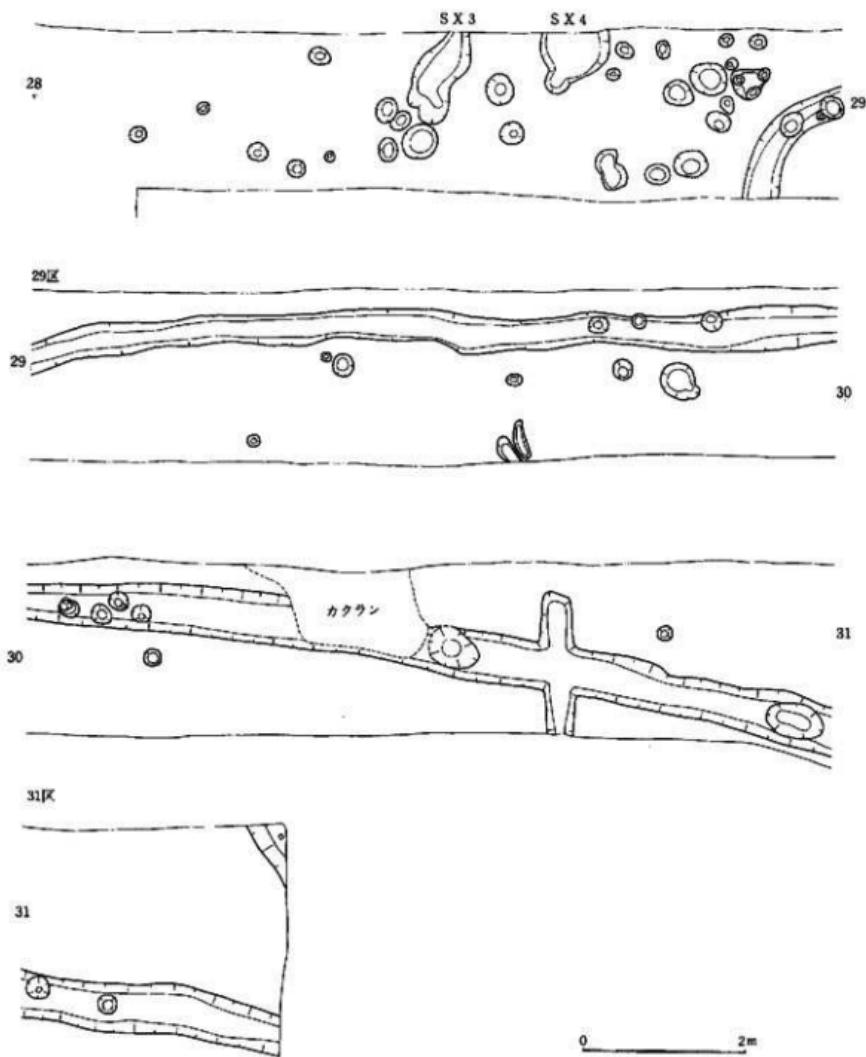


Fig.10 遺構実測図

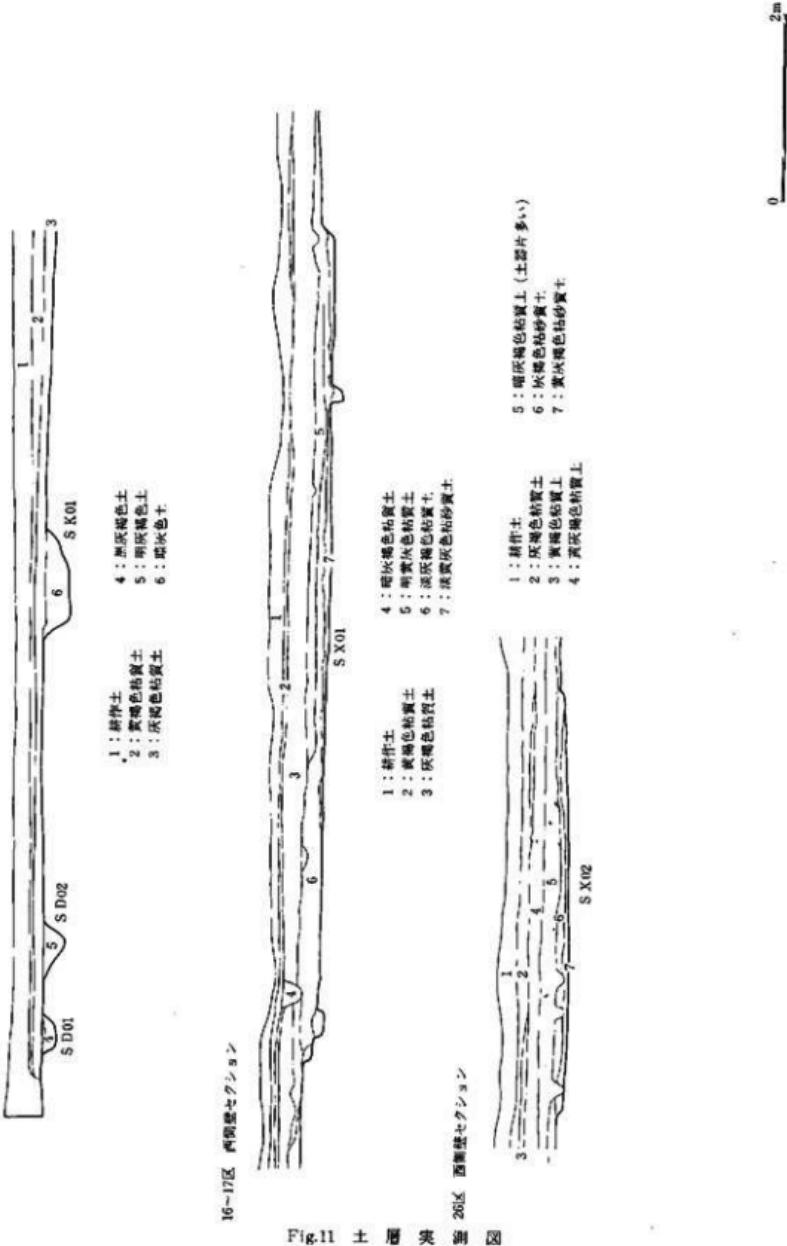


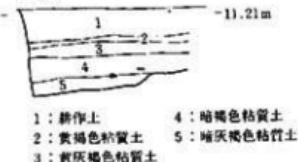
Fig.11 土層実験
16-17区 西側壁
26区 西側壁セク

9区

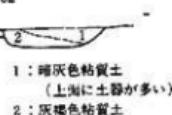
S K03



S D03



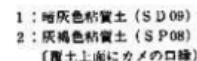
S K02



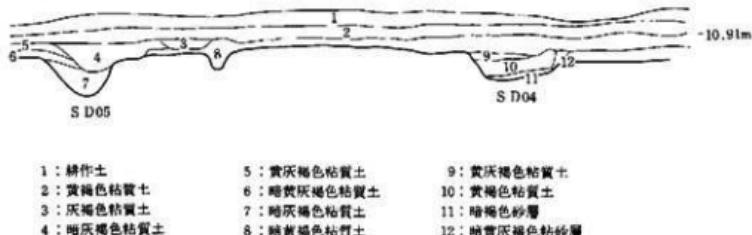
S D09



S D09 S P08



4区 西側壁セクション



0 2m

Fig.12 土層実測図

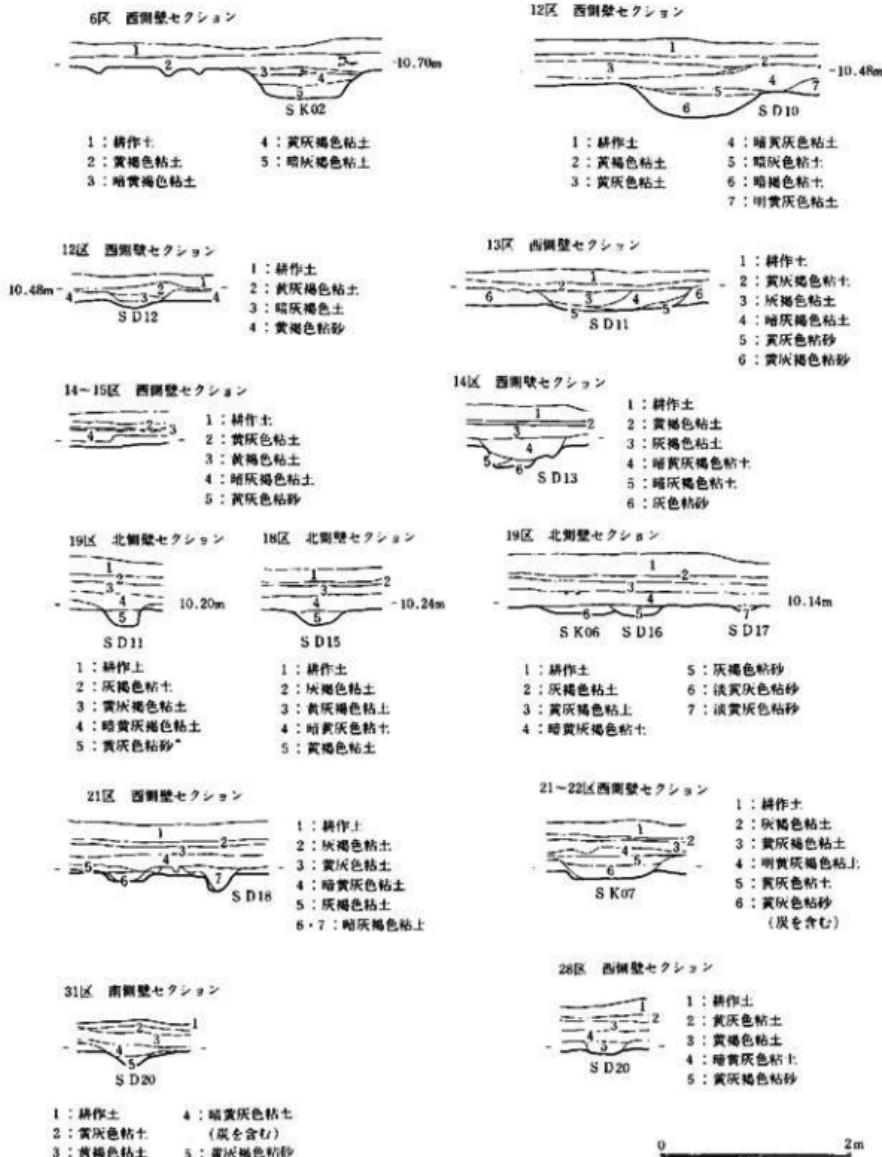


Fig.13 土層実測図

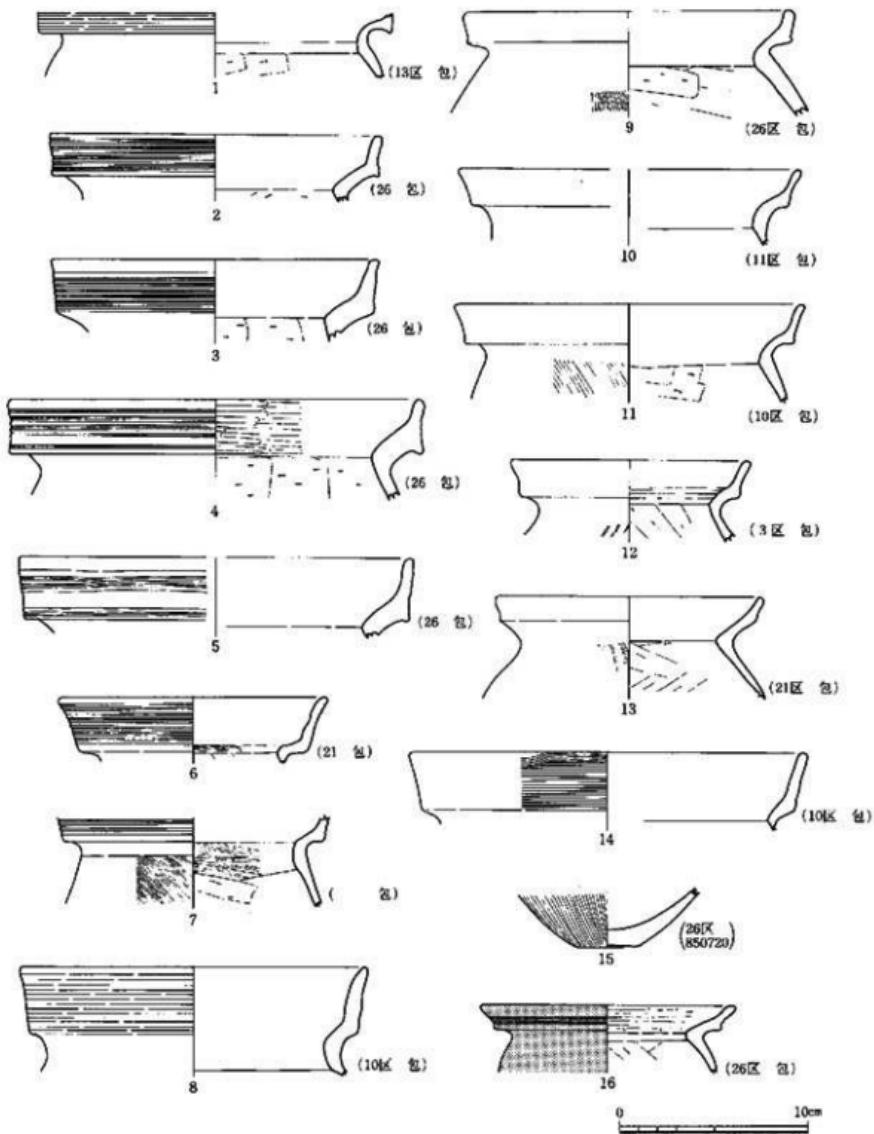


Fig.14 包含層出土土器実測図

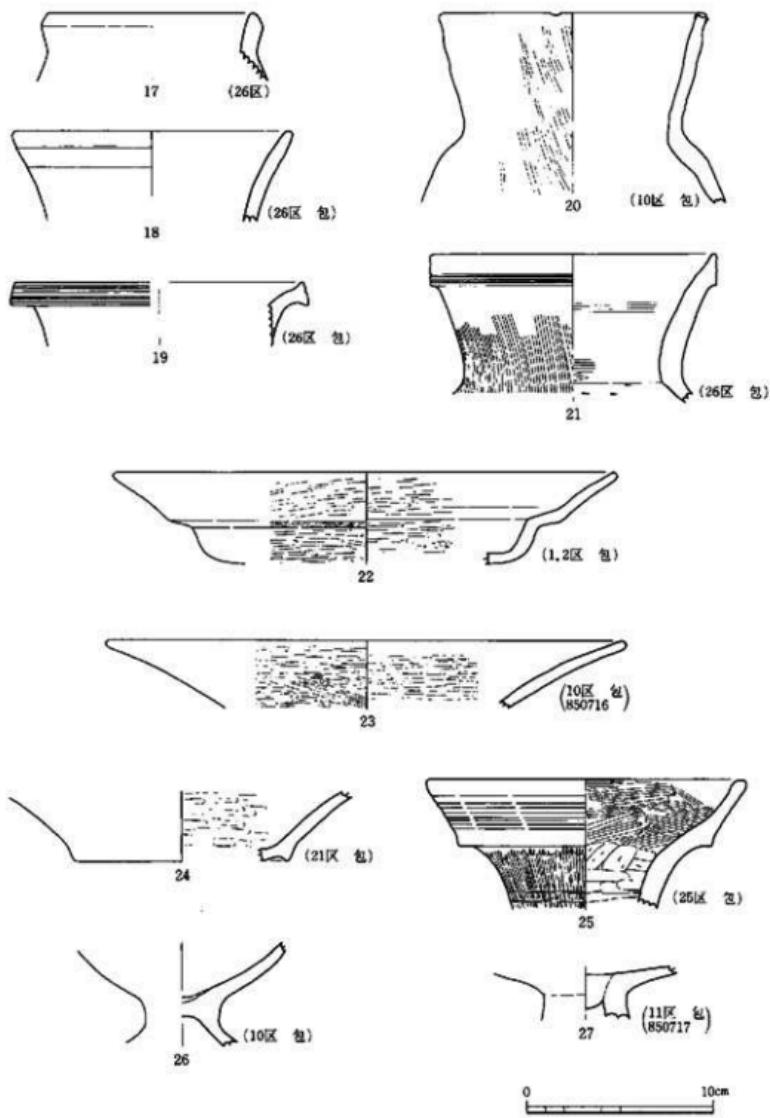
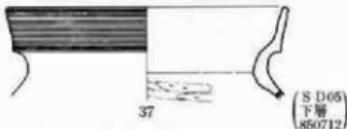
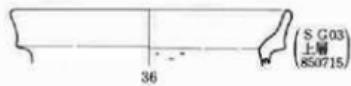
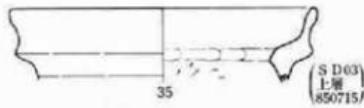
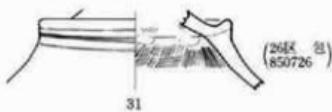
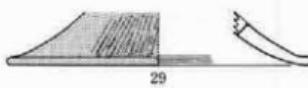


Fig.15 包含层出土上器实测图



0 10cm

28~32: 包含金

33~36: S D03

37~38: S D05

39: S D10

Fig.16 包含層・SD03・SD05出土土器実測図

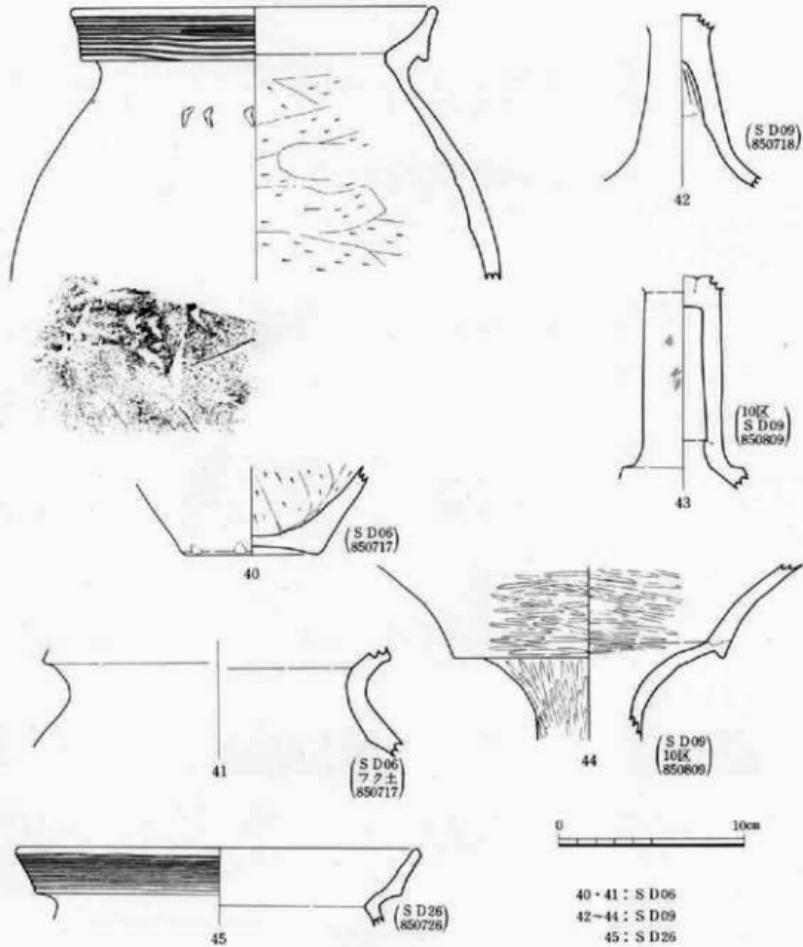


Fig.17 SD06・SD09・SD26出土土器実測図

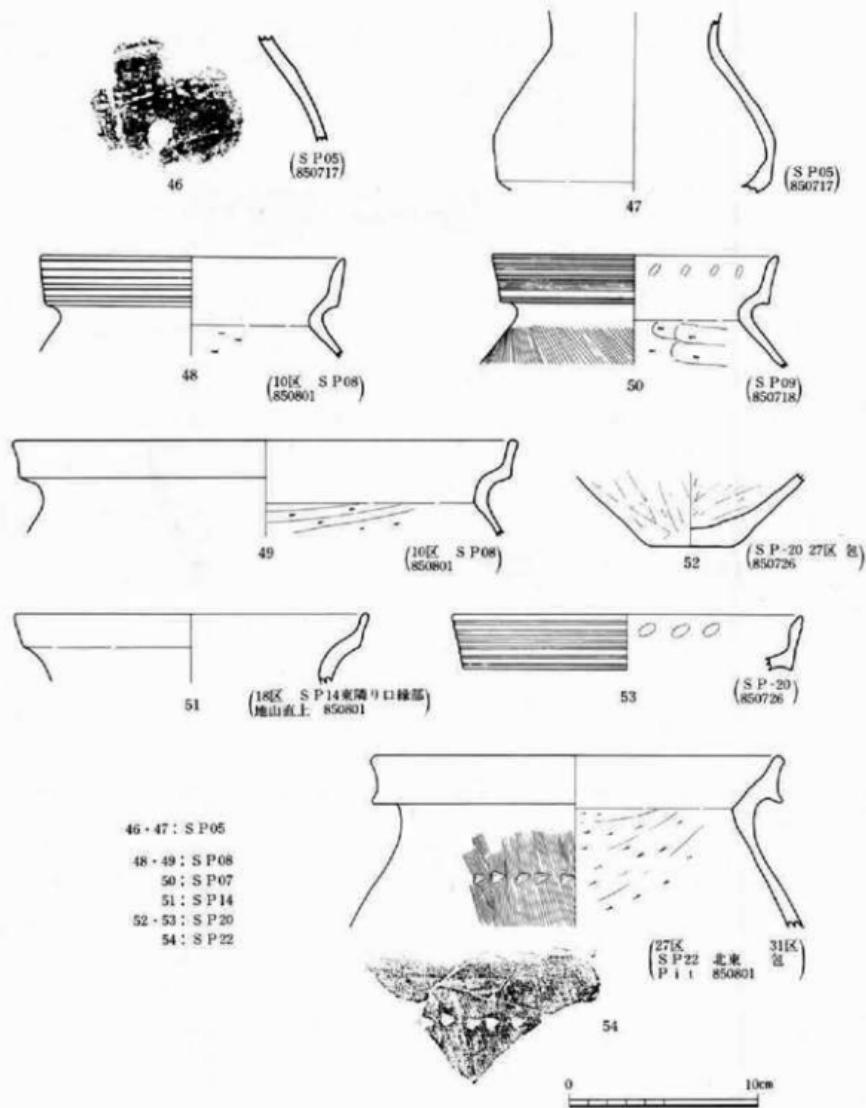
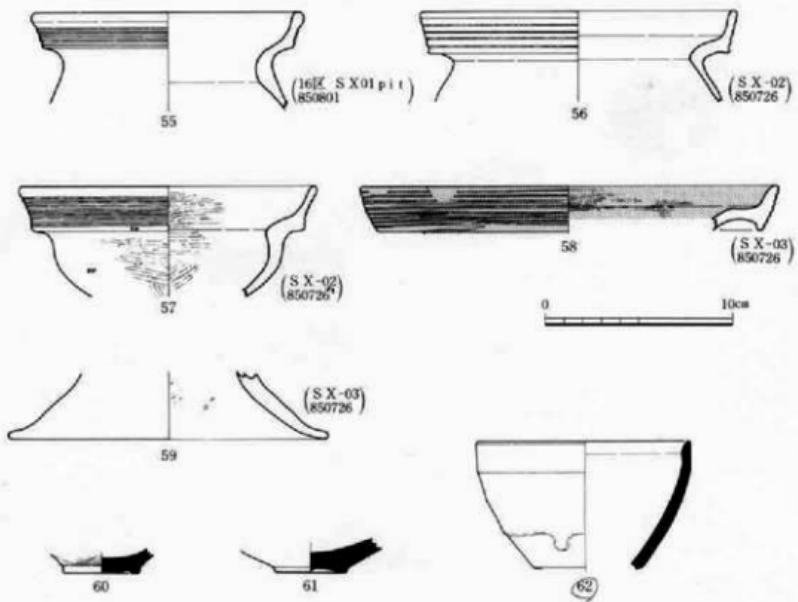
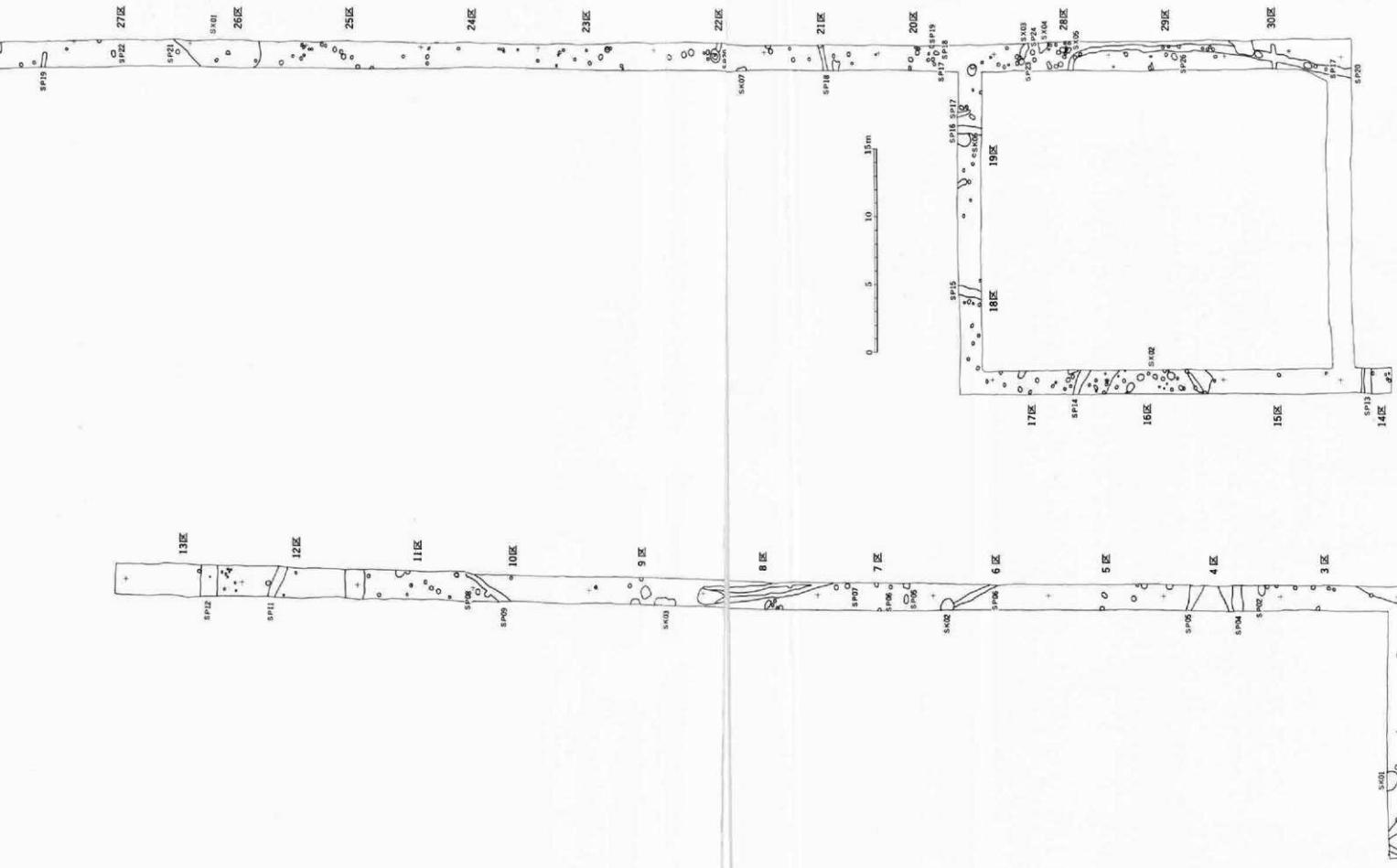


Fig.18 SP05・SP08・SP09・SP14・SP20・SP22出土土器実測図



55 : SX01
 56~59 : SX02
 60 : SK05
 61·62 :

Fig.19 SX01·SX02·SK05・包含層出土土器実測図



東莞市威勝電子有限公司

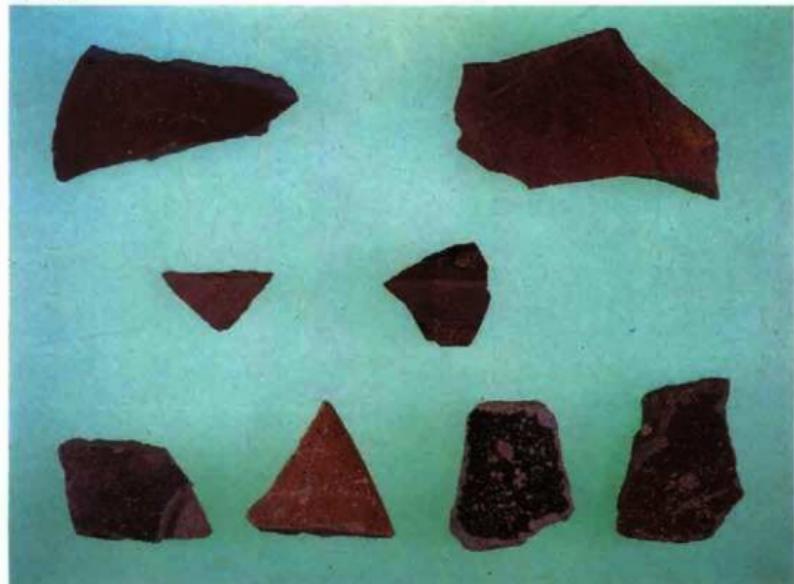
ワガ	%	種類	種類式	成年	性別	年齢	外観特徴	内観特徴	胎土	備考
16	33	骨付	骨	30	3		断脚：少少焼失	削り	陶器焼失	
16	34	骨付	骨	30	3	14	口縁：圓筒形・断脚：ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	
16	35	骨付	骨	30	3	15.5	ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	
16	36	骨付	骨	30	3	16.2	ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	
17	37	骨付	骨	30	3	16.5	口縁：圓筒形・断脚：ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失・高周波焼失	
16	38	骨付	骨	30	3	16.4	口縁：圓筒形・断脚：ハケ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	
16	39	骨付	骨	30	3	17	断脚：表面	削り	陶器焼失	
17	40	骨付	骨	30	3	18	ナデ	削り	陶器焼失	
17	41	骨付	骨	30	3	19	?	?	陶器焼失	シーラント剥落
17	42	骨付	骨	30	3	20	?	?	陶器焼失	
17	43	骨付	骨	30	3	20	断脚？	ナデ	陶器焼失	
17	44	骨付	骨	30	3	20	ナデ	ナデ	陶器焼失	赤色酸化鉄含む
17	45	骨付	骨	30	3	23	口縁：圓筒形・断脚：ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	
17	46	骨付	骨	30	3	25	断脚：表面	?	陶器焼失	
17	47	骨付	骨	30	3	25	?	?	陶器焼失	
18	48	骨付	骨	30	3	26	口縁：圓筒形	断脚：削り	陶器焼失	赤色酸化鉄含む
18	49	骨付	骨	30	3	26.2	ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	
18	50	骨付	骨	30	3	26.2	口縁：圓筒形・断脚：ハケ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	
18	51	骨付	骨	30	3	26.5	?	?	陶器焼失	
18	52	骨付	骨	30	3	26.5	断脚	削り	陶器焼失	
18	53	骨付	骨	30	3	26.5	断脚	削り	陶器焼失	
18	54	骨付	骨	30	3	27	口縁：ナデ・断脚：ハケ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	赤色酸化鉄含む
18	55	骨付	骨	30	3	27.5	口縁：圓筒形・断脚：ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	シーラント剥落
18	56	骨付	骨	30	3	28.5	口縁：圓筒形・断脚：ナデ	口縁：ナデ・断脚：削り	陶器焼失	シーラント剥落
18	57	骨付	骨	30	3	29.5	口縁：圓筒形・断脚：削り	削り	陶器焼失	
18	58	骨付	骨	30	3	29.5	口縁：表面	削り	陶器焼失	
18	59	骨付	骨	30	3	30.5	ナデ	削りナデ	陶器焼失	
18	60	骨付	骨	30	3	31	骨白色地	骨白色地	赤色酸化鉄	
18	61	骨付	骨	30	3	31.5	骨白色地	骨白色地	赤色酸化鉄	
19	62	骨付	骨	30	3	33	骨白色	骨白色	赤色酸化鉄	

Tab. 2 宮永市遺跡出土土器觀察表





図場整備後の宮永市道路(1985年)



宮永市遺跡出土陶片

PL. 4



高密市局地航拍影像(1970年代初)



調査区全景（南から）



南側調査区（北から）



1~2区全景(東から)



1~2区全景(西から)

1 ~ 2 区全景 (西から)



3 区から北を望む

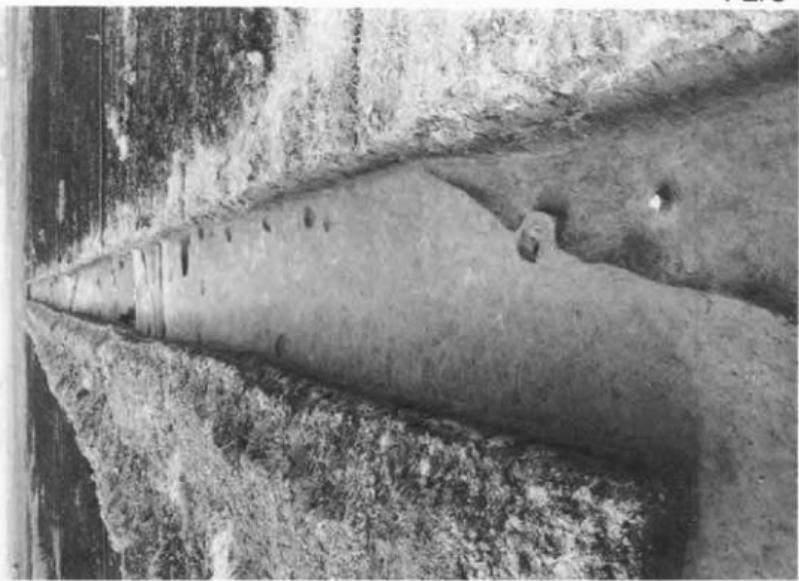




3区周辺調査風景



3区から北を望む



3区から北を望む



3区から北を望む

PL. 10



6区以北全景



6+7区全景



8 区以北全景



8 区 全景

PL. 12



12区全景



12区から南を見る



17区全景（SX01）南から



17・18区全景（南から）

PL. 14



18・19区全景（東から）



18区以南全景



21区周辺（北から）



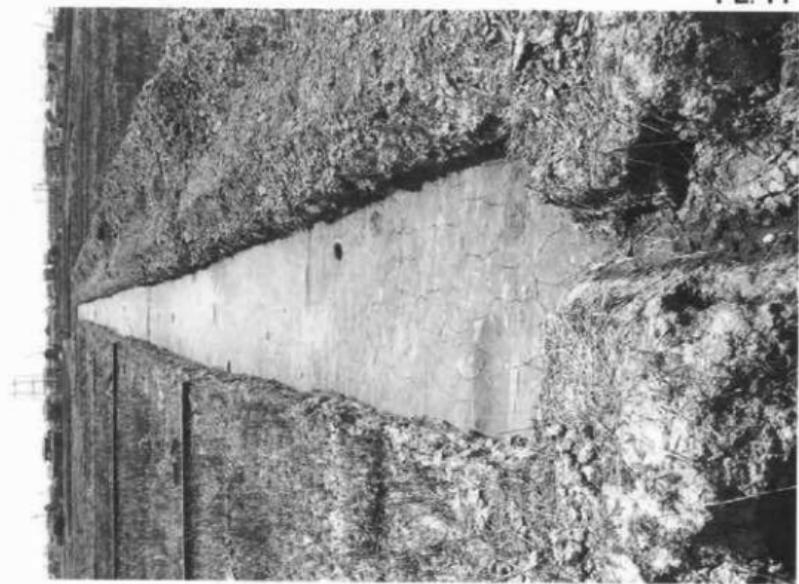
25区全景（南から）



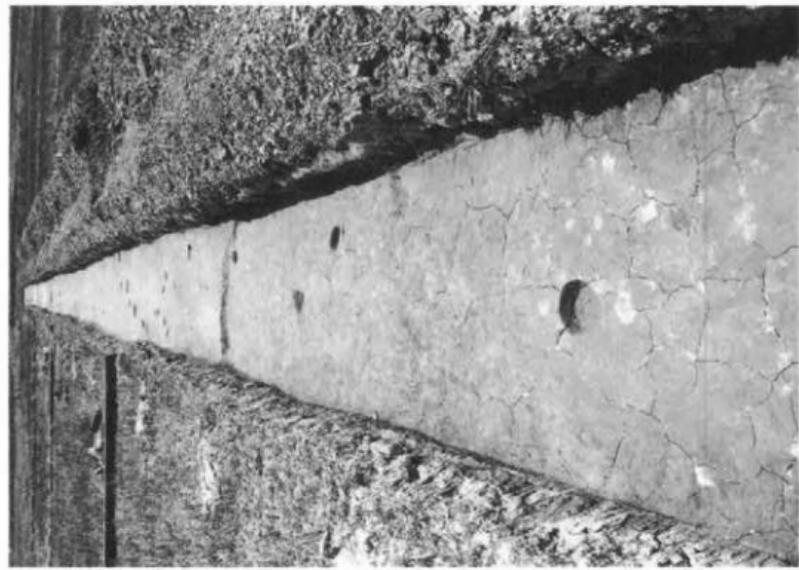
26区周辺（北から）



28区周辺（北から）



27区から前を望む



SX02周辺（北から）

PL. 18



SD01 (西から)



SD02 (西から)



SD03 (北から)



SD04 (南から)



SD05 (東から)



SD06・SK02 (東から)



SD09・SP08（南から）



SD09・SP08（東から）

PL. 22



SD11 (北から)



SD13

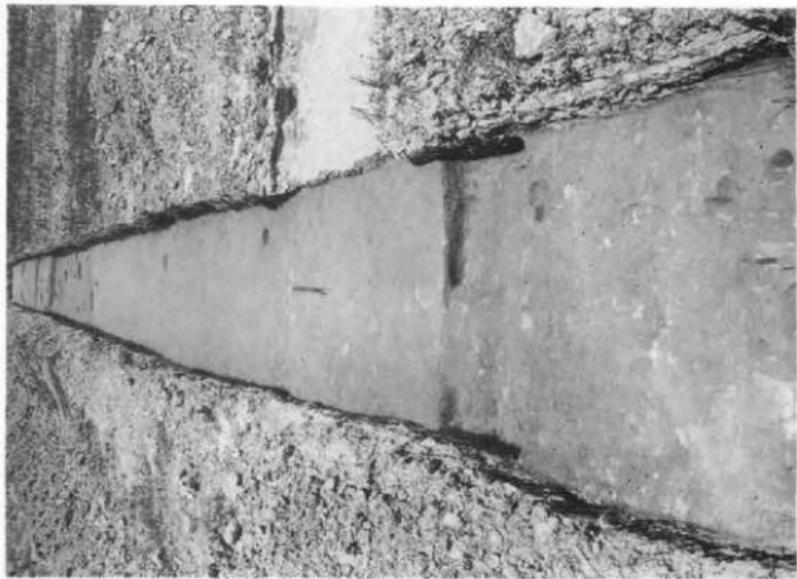


SD15 (南から)



SK06・SD16・17 (南から)

PL. 24



13K・SD11 (北かん)



SD20 (南かん)



SD20 (北から)



SD20 (北から)



SK01 (南から)



SK02 (東から)



SX01 (南から)



SX01 (北から)



SX01 (北から)



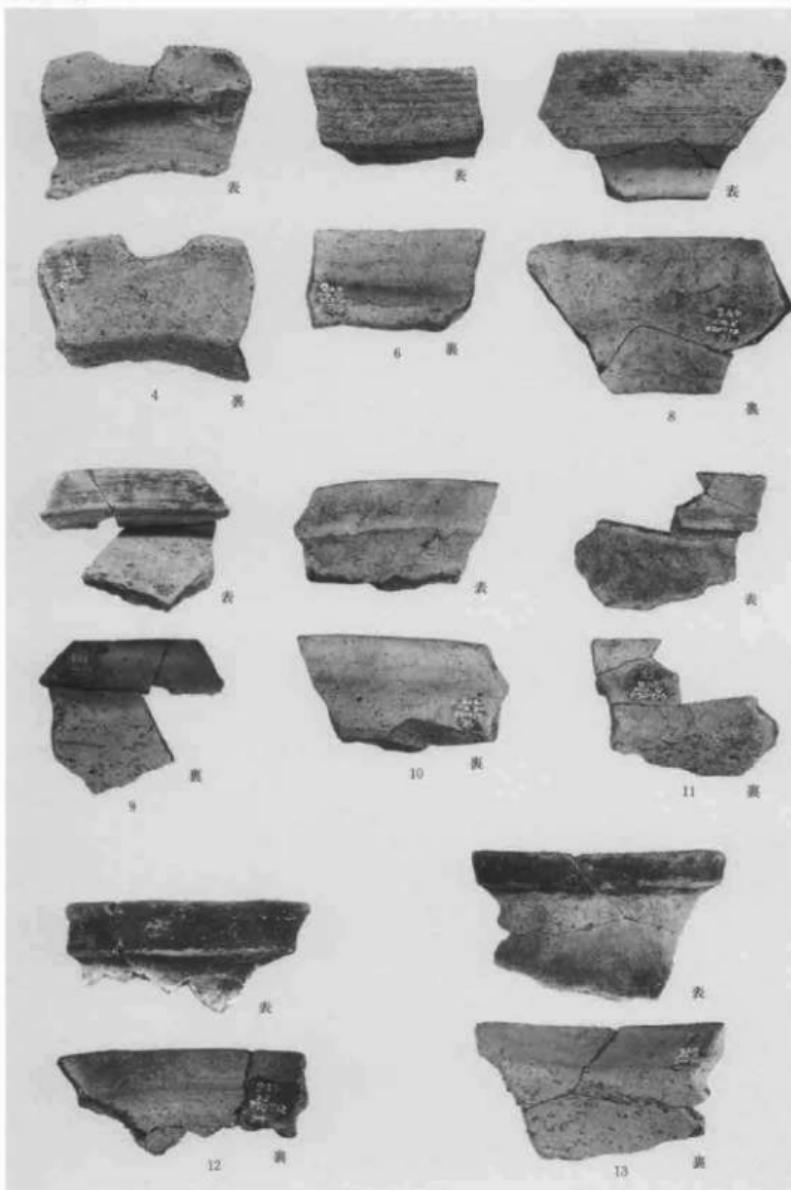
SK01 (南から)



SX01 (北から)



SX01周辺 (南から)

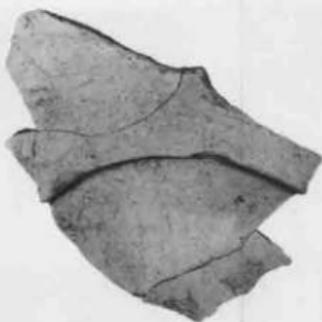




14 基



15 基



22 表



21 表



21 基



25 表



25 基

表

38

裏

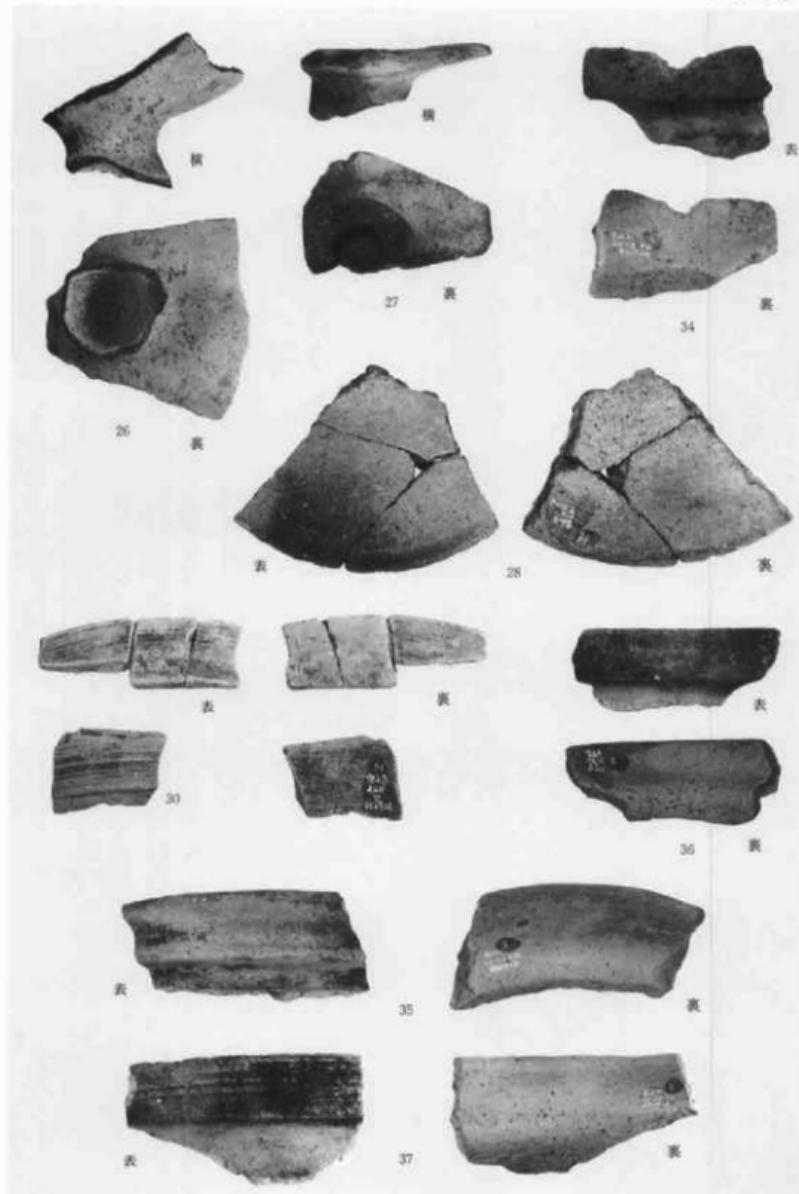


40

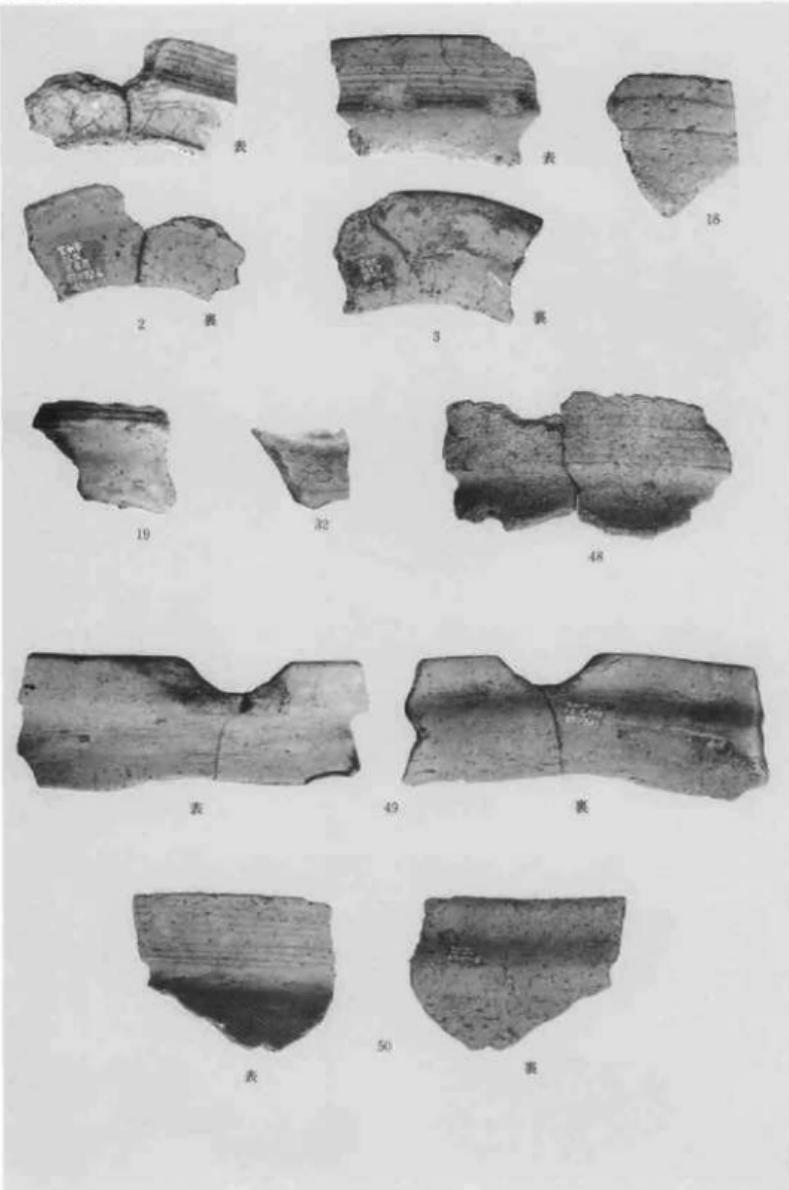
表



裏



PL. 34

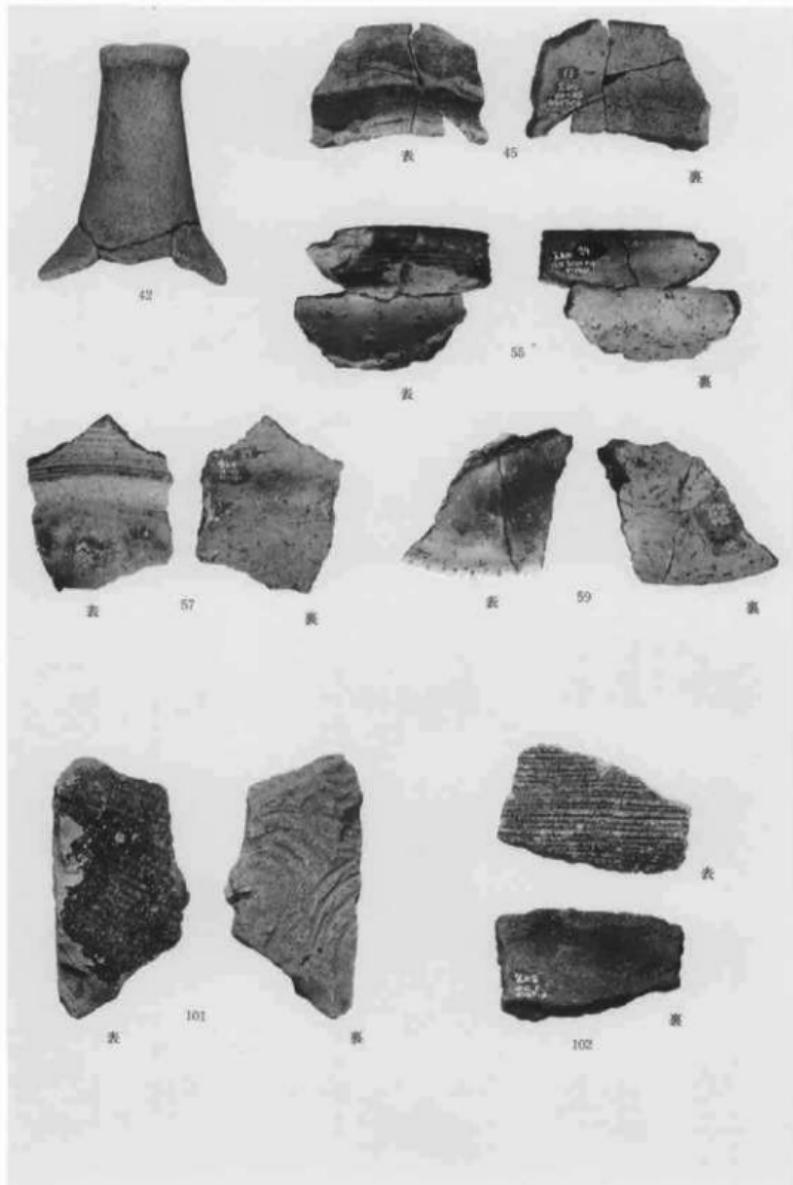


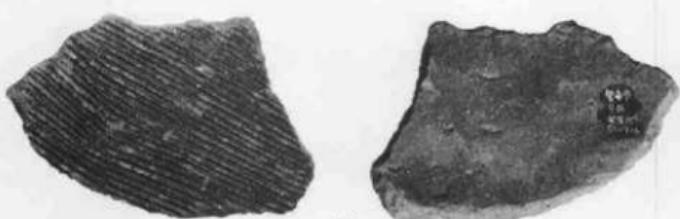


56

29

PL. 36





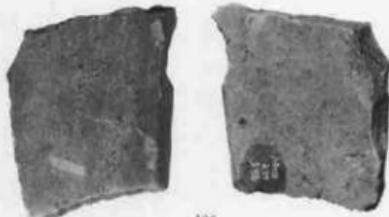
103



104

105

106



106



107



宮永市遺跡

1989年3月31日発行

編集・発行 石川県立埋蔵文化財センター
石川県金沢市米泉町4丁目133番地
〒921 電話(0762)34-7802番回

印 刷 ヨシダ印刷株式会社
